

# 「市民が主役のまちづくり」を目指して

はじめに

陸前高田市は、北上山地の南端部に位置し、水上山や箱根山などの山地、一年を通して優美に流れる気仙川、日本一のカキやホタテをはぐくむ広田湾、緩やかな斜面や低地には住宅地と田園風景、そして三陸海岸に代表されるリアス式の美しい海岸など、豊かな自然景観を有しています。岩手県の東南部にあって、大船渡市、住田町、一関市、宮城県気仙沼市に接しています。

歴史的には、古くから産金が発達しに行われ、奈良県東大寺の大仏や平泉中尊寺の金色堂に金を献上したという言い伝えが残るほか、旧伊達藩の直轄領としての歴史から文化史跡が多数存在します。

昭和30年の市制施行以来、農業、水産業主導型の都市として、また自身の待遇見直しについては、市長報酬の20%カット(附則により現在はさらに7%カット)、市長交際費の大幅削減と100%公開、市長専用車の廃止など、できることから実践し現在も継続しております。これらの取り組みにより、市財政は徐々に改善してまいりました。

## まちづくりの具体策

私は市長に就任以来、一貫して市政の主役は市民であることを説き、



官民協働のイベント「全国太鼓フェスティバル」

た、名勝高田松原をはじめとする自然環境を生かした観光都市として成長してきました。

現在は、社会環境の変化や新たな課題に対応しながら、恵み豊かな自然と長年培われてきた歴史・文化などの優れた地域特性を生かしながら、「市民が主役のまちづくり」を進めています。

## 社会資本整備に伴う投資

本市は、平成元年に「さんりく・リアス・リゾート構想」、さらに平成8年には「海と緑の健康づくり地域(健康海岸)」の指定を国から受けました。それを機に、景観依存型から通年滞在型の観光交流都市を目指し、海洋性リゾート基地の整備を進めてまいりました。

当時は、地方ホテルの誘致、道の駅や海洋文化施設の建設、各種海

「市民が主役のまちづくり」を進めてまいりました。具体的には、市民とのパートナーシップ事業、市民参加による協働のまちづくり、子育て世代・高齢者・障害者にやさしいまちづくり、豊かな地域資源を活用した産業振興の4点が挙げられます。

市民とのパートナーシップ事業は、現代版の目安箱「市長直送便」、市民と膝を交えて話し合う「市長と語る会」などの広聴事業から構成され、市民との双方向行政の実現に大きな成果を挙げています。

市民参加による協働のまちづくりは、地域住民の強い自治参加意識の下で、官民協働の体制整備を進めております。既に、災害時は自主防災組織による確かな対応が迅速に行われているほか、道路愛護会による道路清掃活動は地域コミュニティの形成にも寄与しています。各種イベントの開催にあたっては、市職員も仕事としてではなく、「市民として地域に溶け込み、市役所と市民の信頼感の醸成に大きな役割を担っております。

子育て世代・高齢者・障がい者にやさしいまちづくりとして、保育料・医療費の軽減などの独自施策を展開するほか、福祉施設の誘致、学校施

浜施設の整備を行い、現在もこれらの施設は活用されております。

しかし、このような多額の建設投資は、市財政を圧迫してまいりました。

## 行財政改革

平成15年2月、私はハコモノ行政からの脱却を目指し、市長選挙に立候補し当選しました。借金に依存する市政からの脱却を市民が選択したのです。

そこで、悪化する市財政を立て直したため、平成16年に行財政改革プログラムを策定し、行財政改革着手しました。

行財政改革は、ほとんどの地方自治体にとって不可避の課題です。本市は平成の大合併において「当面自立」を選択しましたが、持続可能な体力を保つために、行財政改革は必

設の改修、医師確保対策などを最重要課題として取り組んでいます。

産業振興については、地域の特徴である一次産業を生かし、特に食品関連企業や木材関連企業の振興を進めています。地域産業や既存の企業を大事にし、今後も大いに盛り上げていきたいと考えております。

## むすびに

本市のまちづくりは、「安全・安



自主防災組織による避難活動(訓練)

要だとの強い意志を職員と確認してからスタートしました。具体的には、内部管理経費の徹底した見直し、職員人件費の抑制、自身の各種待遇の見直しなどが挙げられます。

特に、内部管理経費の見直しに当たり、本市が実施した事務事業評価は、職員一人一人が担当する全事務事業を客観的な視点で評価するという特徴があり、職員の意識改革に大きな役割を果たしています。

職員人件費の抑制については、組織機構改革と併せて定員管理適正化計画を実践するとともに、職員給

心社会「快適環境空間都市」「元気産業都市」「人・地域幸福都市」を目指し、各種施策を実施しています。

これらの実現には、市民が行政に参画し、自治意識の高いまちづくりを目指すことが肝要であると思えます。その高い自治意識が、住民にさらに深く浸透したあかつきには、「市民が主役のまちづくり」により、真に住民が幸せを実感できることを確信しております。

## プロフィール

- ◆ 面積 232.29 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万3687人
- ◆ 世帯数 8136世帯

〔将来都市像〕健康で文化の薫る海浜・交流都市

〔まちの特徴〕海山里がそろう、年中温暖で快適なまち

〔特産品〕日本一のカキをはじめとする、ワカメ、ホタテなどの海の幸。キノコ、クラゲ、タケノコ、お茶などの山の幸も特産化



陸前高田市長 中里長門



〔観光〕白砂青松の「名勝高田松原」や「黒崎仙峡」などの自然景観。「海と貝のミュージアム」や「気仙大工左官伝承館」などの特徴ある展示資料館。「黒崎温泉」「玉乃湯」などの湯めぐり

〔イベント〕「気仙町けんか七太」「うぐく七まつり」などの伝統行事。「全国太鼓フェスティバル」などの全国規模のイベント

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 住み続けたいと実感できる魅力的なふるさと 「市民が誇れる越谷」を目指して

### 「越谷レイクタウン」誕生

越谷市は、都心から北へ25kmの埼玉県南東部に位置し、大宮台地と下総台地に挟まれた丘陵のない平坦な地形で、多くの一級河川が流れており、豊かな水と緑に恵まれ、古くから「水郷こしがや」として親しまれてきました。



開発が進む「越谷レイクタウン」

江戸時代には、日光街道第三の宿場町としてにぎわいを見せ、今もその名残をとどめるなど、豊かな自然と歴史が融合したまちです。

また、人口32万人を擁する県南東部地域の中核都市として発展を続けており、平成20年には、市内8番目の駅となるJR武蔵野線の越谷レイクタウン駅が開業し、広大な調節池を中心とした良好な住宅地や国内最大級のショッピングセンターなどが集約した、親水文化創造都市「越谷レイクタウン」が誕生しました。ここでは、環境共生のまちづくりを進めており、その取り組みが高く評価され、「環境に配慮した住みよいまちづくり国際賞」として、世界で唯一の国際表彰制度であるリブコムアワード2009において、日本で初めてプロジェクト賞の金賞を受賞しました。

さらに、平成23年度竣工を予定している本市の中心核となる越谷駅の東口第一種市街地再開発事業をはじめ、各種事業に取り組み、人にやさしく自然と調和した秩序ある美しいまちづくりを進めています。

### 全国へ越谷らしさを発信

本市には、宮内庁が現在全国で2カ所管理している鴨場のうちのひとつ「埼玉鴨場」があり、毎年、鴨をはじめ3000羽を超える渡り鳥がやって来て生息しています。11月から2月の猟期には、皇族や各国の外交官の方々などが次々と訪れます。平成17年には、埼玉鴨場にちなんだ「鴨」と、地元特産品の「越谷ネギ」をはじめとする地産野菜を組み合わせた越谷オリジナルの鍋「こしがや鴨ネギ鍋」が誕生しました。これは、地域活性化を図るために、越谷発のブランドをつくらうと越谷市商工会の青年部が考案したもので、全国から鍋が集まり味を競う「彩の国鍋合戦」に参戦したところ、第2回、第

より、ぜひ多くの皆さまにご来園いただきたいと思っております。

そして、本市が全国に誇るイベントとして、本場・徳島、高円寺(東京)と並び日本三阿波踊りといわれる「南越谷阿波踊り」があります。毎年、徳島からの招待連を含め60連以上の連が参加し、観客も県内外から50万人を超える方々にお越しいただいております。大変な熱気にぎわいを見せています。

私は、平成21年11月に越谷市長に就任以来、まちづくりの基本理念の一つとして、「市民が誇れる越谷」を目指すことを掲げていますが、こうした資源を生かし埼玉県内はもとより、全国に越谷らしさを発信し、魅力的なふるさとづくりを進めています。



越谷市が誇るイベント「南越谷阿波踊り」

「なんでも話そう市長とふれあいミーティング」を開催  
本市では、平成21年に市政運営の最高規範となる越谷市自治基本条例を施行し、協働して豊かな地域環境を創造し、誰もが安心して生活していけるまちづくりに取り組んでいます。

また、現在、平成23年度を初年度とする「第4次総合振興計画」を策定していますが、越谷市自治基本条例を踏まえ、市民の計画策定への参加を得るとともに、市民ニーズを積極的に反映しています。そして、十分な現状分析と将来予測により、市民が安全で安心して快適な生活を送ることのできる目標を設定し、その達成に向け施策が体系化された、分かりやすく実現性のある計画となるよう鋭意策定を進めています。

さらに、私は、これまで以上に市民と行政が共に考え決定し、そして行動するスタイルを確立できるよう取り組んでおり、市内各種団体などから広く意見・提言をいただき、市政に対する理解と協力をお願いしながら、市民を主役にした、「市民力」を生かしたまちづくりを進めています。その一つの方策として、「なんでも話そう市長とふれあいミーティング」と題して、本年7月、8月の2カ月をかけて、市内13地区の地域住民と地域に根ざした課題について懇談会を開催しました。今後、さまざまな活動を行っている市民団体などと幅広く懇談を行い、市民の皆さんの声を市政運営に生かしていきたいと考えています。

### プロフィール

- ◆ 面積 60・31km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 32万7186人
- ◆ 世帯数 13万6230世帯

〔将来都市像〕水と緑と太陽に恵まれた ふれあい豊かな自立都市

〔まちの特徴〕古くから「水郷こしがや」として親しまれ、江戸時代には日光街道第三の宿場町として栄えるなど、豊かな自然と歴史が融合したまち

〔特産品〕ネギ、クワイ、コマツナ、山東菜、チューリップ、太郎兵衛もち、手焼きせんべい、越谷だるま、桐箱、越谷ひな人形

越谷市長 高橋 努

〔観光〕キャンベルタウン野鳥の森、日本文化伝承の館こしがや能楽堂、(仮称)越谷アリティキ植物園、県営しらこぼと水上公園、梅林公園、大聖寺、浄山寺、久伊豆神社

〔イベント〕南越谷阿波踊り、越谷花火大会、北越谷桜まつり、久伊豆神社藤まつり、下間久里の獅子舞、越谷市民まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 「みんな輝き 幸せ感じる 健康都市」 大府を目指して

「健康」なまち大府

大府市は、名古屋市の南東部に隣接するとともに、知多半島の根幹部に位置しております。第二東名高速道路や中部国際空港を利用しやすい交通の要衝にあり、国内外との移動がしやすい恵まれた地理的条件を備えています。地形は緩やかな丘陵や平地が断続しており、都市近郊農業、自動車関連産業を中心とした工業、区画整理等で基盤整備された住宅地など、バランスの取れた都市環境を形成しています。その中でも、工業の面では、トヨタ系企業が多く集積しており、活発な産業活動により本市の財政運営にも好影響をもたらしています。

高齢化が進む中にある若い世代の市内への流入が進み、住宅や雇用の需要が増え続けています。そのため、土地区画整理事業や第二東名高速道路インターチェンジ周辺の物流機能を生かした工業団地の造成、幹線道路の整備など積極的に都市基盤整備を進めています。今後も生産年齢人口の増加を図り、都市の活力を継続的に高めていく産業振興や都市基盤整備などを進めていきます。

また、本市は小学校区ごとに公民館や児童老人福祉センターを設置して地域活動を行いやすい環境を整備しています。現在は、図書館・文化交流の杜」の整備や小学校の新設を重点的に進めているほか、子どもから高齢者まですべての世代が暮らしやすいまちにするため、中学校卒業までの医療費無料化や妊産婦健康

また、市内にはあいち健康の森公園周辺に健康長寿のナショナルセンターである「独立行政法人国立長寿医療研究センター」をはじめ「あいち小児保健医療総合センター」「認知症介護研究・研修センター」など、全国でも有数の国や県の大規模な保健・医療・福祉関連の施設が立地しています。現在、これら地域のポテンシャルを有効に活用して新たな健康福祉関連産

また、市内にはあいち健康の森公園周辺に健康長寿のナショナルセンターである「独立行政法人国立長寿医療研究センター」をはじめ「あいち小児保健医療総合センター」「認知症介護研究・研修センター」など、全国でも有数の国や県の大規模な保健・医療・福祉関連の施設が立地しています。現在、これら地域のポテンシャルを有効に活用して新たな健康福祉関連産

ニティ単位での生涯スポーツとして盛んに行われています。このように本市は、市民一人一人が心身共に健康であると同時に、市民が生活する地域社会や都市全体が健康であり、市民が本市に住み続けたいと実感できる魅力あるまちづくりを進めています。

### 市制施行40周年

本年は、本市の市制施行の年から数えて40周年にあたります。1970(昭和45)年の市制施行当時には4万8千人余りの人口でしたが、現在は8万5千人を超えるまちに成長してきました。この記念すべき年を市民の皆さまと共に祝い、先人たちによって培われた伝統、まちの立地条件や都市機能など、本市の持つ強みをさらに磨き上げて、市のさらなる発展のきっかけとしていきたいと考えています。質の高い行政サービスや特色あるまちづくりが求められる中において、これまでの歴史を踏まえてさまざまな市制40周

年記念事業を実施し、人もまちも「健康」と呼ぶにふさわしい魅力ある大府市をこれからも世界に発信してまいります。

また本市は、岩手県遠野市、滋賀県長浜市、愛知県新城市、長野県王滝村と都市間交流事業を行っており、災害時相互応援協定や文化、スポーツなど、行政だけでなく市民同士の交流も活発に行われております。市制40周年記念事業として王滝村で市民や市職員の緑化活動を行い、また、本市の産業文化祭りは遠野市の伝統文化の紹介などを予定しており、交流を通して互いのまちの発展に取り組んでいます。



ウェルネスバレーの周辺エリア(左は「独立行政法人国立長寿医療研究センター」中央は「あいち健康プラザ」と「あいち健康の森公園」)

### 第5次総合計画

市制40周年の節目となる本年度は、第5次総合計画のスタートの年でもあります。より豊かな市民生活を実現するために、市民一人一人が、個性や能力を発揮して生き生きと活動することで、活力あるまちの実現を目指します。また、人々がお互いに助け合い温かみのある地域を形成し、日々の暮らしに幸福を実感できる魅力あるまちの実現を目指して、将来都市像を「みんな輝き 幸せ感じる 健康都市」としました。

本市は、第1次総合計画から「健康都市」の実現をまちづくりの基本的な理念に掲げており、昭和62年には「健康づくり都市」宣言を行いました。また、平成18年にWHO健康都市連合へ加盟し、世界標準の健康都市のまちづくりを進めてきました。

総合計画では、まちづくりを推進する上での基本的な視点を「市民力」「地域力」「都市力」としました。これら3つの「力」が相互に連携し調和すること、持続可能なまちづくりを進めていき、市民がいつまでも住み続けたいと思える「健康都市」の実現を目指してまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 33・68km<sup>2</sup>
  - ◆ 人口 8万5801人
  - ◆ 世帯数 3万4595世帯
- 〔将来都市像〕みんな輝き 幸せ感じる 健康都市

- 〔まちの特徴〕交通の便がよく、自然・産業・住環境の都市機能のバランスのとれた、スポーツの盛んなまち
- 〔特産品〕ブドウ、ジャンボ梨、木の山芋、タマネギ、ジャガイモ、キャベツ、自動車



大府市長 久野孝保



- 〔観光〕あいち健康の森公園、大府みどり公園、風車ミニユメント(桃山公園内)、JAあぐりタウンげんきの郷
- 〔イベント〕大府シティ健康マラソン、産業文化祭り、大倉公園つつじまつり、盆梅展、どぶろく祭り

※面積は国土地理院「全国道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 個性と魅力に満ちた活力ある 東大阪へ

### 日本を支える 「モノづくりのまち」

私は市長に就任した登庁初日、「中核市としてモデル的存在となり、全国から視察に来ていただけるような市を目指そう」と職員に語り掛けました。東大阪市議会議員5期の経験から、本市にはそれだけの資質と資源が備わっていると確信していたからです。その本市のポテンシャルエネルギーを具体的政策としてどう生かすか。それが首長としての手腕を問われるところであり、やりがいがあると感じています。

さて、本市は大阪府の東部に位置し、自然豊かな生駒山に抱かれ、人口50万人を擁する歴史と文化にはぐくまれたまちです。古くは生駒山から流れる水の力を利用した水車工業が盛んで、特に伸線業が

発展し、本市産業の基礎となりました。やがて大都市圏産業集積地として発展を遂げ、今では基盤的技術産業を中心に高い技術を持った企業が集積する「モノづくりのまち」として知られています。工場集積率は全国ナンバーワンであり、単に集積しているだけでなく、横請けや仲間請けといった柔軟なネットワークを構築しており、この相互連携と協調を通じた技術力の向上が日本のモノづくりの底力となつていきます。

また、多彩な業種がひしめくことから、本市の製造業は、歯ブラシから新幹線、さらに人工衛星まで、と例えられます。平成21年1月には本市町工場の夢とアイデア、情熱と技術力を結集した人工衛星「まいど1号」が打ち上げられたことは思いが強くなります。

サッカーのワールドカップは日本代表の躍進もあり、日本中が盛り上がりました。スポーツの盛り上がりと一体感、まちづくりの大きなエネルギーになります。ラグビーワールドカップも、数字だけでは表せない効果をもたらし、子どもたちに夢と希望、そして感動を与えることでしょう。必ずトライを決め、さわやかなノースайдを迎える日が来ると確信しています。

記憶に新しいことと思います。打ち上げ成功により、本市が活気づいたことは言うまでもありません。

このように各分野でトップシェアを誇るナンバーワン企業やユニークな製品を開発するオンリーワン企業、そのほか多くの製造業が、地域経済や雇用などの市民生活はもとより、本市の財政を支える重要な役割を担っています。

中小企業の活性化こそが、まち全体に活力をもたらすものと確信しており、「中小企業が元気なまちづくり」を基本政策として事業を推進しています。

### 訪れたいくなる 「ラグビーのまち」

本市にはラグビーの聖地である近鉄花園ラグビー場が位置することから、その特性を最大限に活用する



「ラグビーのまち東大阪」マスコットキャラクター トライくん

ため、平成3年に「ラグビーのまち」を表明し、市民が愛着と誇りの持てるまちづくりを推進しています。

特に、冬の風物詩である全国高校ラグビー大会では、毎年10万人近いファンが観戦に訪れることから、歓迎の意を込め、その支援を市民と協働で取り組んでいます。ファンと市民の熱気で、まち全体が活気に満ちあふれるときです。

また平成21年、ラグビーワールドカップ2019の日本初開催が決定しました。残念ながら、施設面などの課題から近鉄花園ラグビー場が試合会場の候補に挙がっておりません。市としては、このことを新たなまちづくりのチャンスととらえ、本年4月1日にラグ

ビーワールドカップ誘致室を設置し、市民とスクラムを組み、誘致活動を展開しています。

まずは誘致機運の醸成から。市として初めての署名活動を実施したところ、市民の皆さんも誘致が「同じ思いでありました」「誘致が「んばれ」との温かい声援がエネルギーになります。また6月1日からのクールビズに併せ、職員がラガーシャツを着て勤務しています。もちろん私も着用。市民の皆さんにも取り上げられています。注目されることで改めて花園誘致への



2019年ラグビーW杯花園誘致を目指して! ラガーシャツで勤務

思いが強くなります。

### 新たな個性 「カレーパンのまち」

本市で今、売り出し中なのが「カレーパンのまち」です。本市の「にぎわい」へとつながる魅力を発掘するため、若手職員が中心となり「東大阪市の魅力アピール推進会議」を立ち上げ、そこで提案されたものです。形状がラグビーボールに似ていること、またカレーで有名なハウスの食品株式会社創業の地であること由来し、「カレーパン」を東大阪市の食ブランドとして本市のアピールとまちおこしにつなげようというものです。現在、東大阪カレーパン事業として、まちのパン事業者や関係団体と実行委員会を組織し鋭意活

動中。こうした若手職員の発想と地域のパワーは、間違いなく地域主権時代のまちづくりに必須だと感じています。本市にまた一つ全国に誇れる個性ができるものと、今後の展開に大いに期待するところです。

### 夢と活力あふれる元氣都市へ

平成23年度から本市第2次総合計画の後期基本計画がスタートします。後期基本計画の策定にあたり

では、ワークシヨップなどに市民が主体的に参画し、「市民の、市民による、市民のための計画」となるよう取り組みました。都市将来像である「夢と活力あふれる元氣都市」を創造するため、本市の魅力と個性を最大限に活用し、市民・生活者や事業者、行政がスクラムを組む、「住み続けたいまち」「住みたくなるまち」になるよう努めてまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 61・81km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 50万5364人
- ◆ 世帯数 22万9084世帯
- 〔将来都市像〕夢と活力あふれる元氣都市・東大阪
- 〔まちの特徴〕世界に誇る技術を持った中小企業が集積する「モノづくりのまち」、市民・企業・行政がスクラムを組んだ「ラグビーのまち」
- 〔特産品〕機械・金属関連製品、作業工具、伸線、ボルト、ナット、ブラシ、



東大阪市長 野田義和



- ラグビークラブズ
- 〔観光〕石切劔箭神社、暗峠(日本の道百選)、枚岡神社、鴻池新田会所、近鉄花園ラグビー場、布施戎神社、司馬遼太郎記念館、田辺聖子文学館
- 〔イベント〕石切劔箭神社節分祭、東大阪市民ふれあい祭り、枚岡神社秋郷祭、全国高等学校ラグビーフットボール大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。

# 安心、安全、元気そして希望に満ちた 山鹿の再生を目指して

はじめに

山鹿市は、熊本県の北部に位置し、福岡県と大分県に接する農林業が盛んな地方都市です。地形は、山地・山ろく丘陵・段丘台地・自然堤防・低地と起伏に富み、古くは、江戸時代の参勤交代の宿場町として栄えました。現在は、豊富な湯量を誇る「やまが温泉五湯郷」や溪谷、棚田などの豊かな自然と、菊池川流域の装飾古墳群や古代の山城・鞠智城、江戸時代の芝居小屋の姿を今に伝える八千代座、千人灯笼踊りで有名な山鹿灯笼まつりなど、歴史と伝統文化が調和した田園観光都市として注目されています。

また、本市は、熊本県が世界に誇る「阿蘇」や原生林が生い茂る「菊池溪谷」にも近く、九州自動車道菊

水ICや南関ICからのアクセスも容易であることに加え、平成23年3月には九州新幹線が全線開業することから、「自然と歴史に浸れる観光都市」として、さらなる観光客の誘致と交流人口の拡大に努めています。

## 山鹿温泉のシンボル 「さくら湯」の再生

明治3年、参勤交代の廃止によってその利用が減り、老朽化も進んでいた御茶屋(肥後細川家の別荘)を一部解体し、増え続ける入浴客に対応できる公衆浴場として改築する計画が持ち上がりました。その先頭に立ったのが、当時「旦那衆」と呼ばれた地元豪商たちです。また、町人たちも自ら進んで作業を申し出たといわれています。その後、幾度となく増改築が加え

られ、市民の浴場となった山鹿温泉は「さくら湯」と呼ばれて市民に愛されましたが、昭和49年の市街地再開発事業で解体されました。再開発ビル内に市営温泉として再びオープンしたものの、やはり市民の間にはさくら湯再建を望む声が強くなり、市街地再開発事業でできた建物のリニューアルを機に、元の場所往年のさくら湯を再生することにになりました(完成は平成24年度中の予定です)。

そこで、さくら湯改築に賭けた「旦那衆」と町人の心意気を引き継ぎ、多くの方々にはさくら湯建設にかかわりを持っていただきたいとの思いから、現在、「一口湯主」と称する募金活動(一口1万円)を行っています。浄財は建設費に充てさせていただきます。寄付者には「湯主手形」を発行するとともに、



解体前の「さくら湯」の全景

さくら湯完成後10年間、年4回無料入浴できる「湯札」と、八千代座・灯笼民芸館・博物館を無料見学できる「観光手形」を発行することにしています。

## 八千代座100周年記念事業

廃屋同然の状況から平成の大修理を経て、本年12月に築100年を迎える八千代座(国指定重要文化財)を全国にPRしようと、地元有志が集まって実行委員会を結成

し、現在、さまざまな記念事業を行っています。坂東玉三郎さんと中村獅童さんによる歌舞伎の共演や忠臣蔵サミット、中学生の歌舞伎教室、演劇発表、市民による第九の合唱など、多彩な催しが予定されていますので、ぜひこの機会に多くの方に八千代座へお越しくださいたいと思います。また、記念事業の一環として、かつて解体の危機に直面した際に復興の起爆剤となった市民の「瓦一枚運動」が24年ぶりに復活し、記念事業の運営資金と八千代座の補修費に充てる募金活動が本年8月から始まり

ます(八千代座の名と100年にちなみ、一口8100円)。

私は当実行委員会の会長を務めています。こうした取り組みが八千代座を若い世代に引き継ぐため、次の100年の足掛かりになればと考えています。

## 定住自立圏構想の推進

平成17年1月の合併以来、本市では人口減少や少子・高齢化の進行、さらには中心地域と周辺地域間の格差が深刻になっています。こうした問題に対処するため、これまでさまざまな事業に取り組みながら、より効果的な施策展開を模索していったところ、平成21年に「定住自立圏構想」がスタートしました。定住自立圏構想とは、中心地域と周辺地域が役割分担し、定住に必要な機能をそれぞれにおいて整備し、お互いがその機能を活用し合うことで、圏域のどこに住んでも安心して暮らしていける地域を形成していこうというものです。幸い、この構想は、合併後の本市が取り組んできた行政課題と問題意識を同じくするものであり、これに沿った取り組みを通じて、合併後の本市の一体的な発展に向



天井広告が再現された「八千代座」内部の様子

## プロフィール

- ◆ 面積 299.67km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万7343人
- ◆ 世帯数 2万1155世帯

- 〔将来都市像〕まほろば創生・人輝く温もりの都市やまが
- 〔まちの特徴〕豊かな自然と歴史・文化遺産に恵まれた田園温泉観光都市
- 〔市町村合併〕平成17年1月15日 山鹿市、鹿北町、鞠智町、鹿本町、鹿央町が対等合併して誕生
- 〔特産品〕山鹿灯笼、来民うちわ、スイカ、栗、筍、鹿北茶、菊鹿ワイン、キンカン



山鹿市長 中嶋憲正



- 〔観光〕八千代座、灯笼民芸館、石の風ぐるま、不動岩、鞠智城跡、岳間・矢谷溪谷、康平寺、平山温泉
- 〔イベント〕山鹿灯笼まつり、山鹿温泉祭、鹿本招魂祭、鹿北茶山唄全国大会、鹿央蓮まつり、さくか夏まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。